

# NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第107号(201806)

発行 竹田 幸男



第8回ビデオ作品発表会 竹田幸男さん「回想 ワルシャワ そしてポーランド」より

## 例会の窓

映像同好会5月総会／例会

日時：2018年5月9日(水)

場所：市民活動センター4階こども部屋

出席者：新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田 谷  
中村地区委員

欠席者：1名(50音順・敬称略)

### 【総会】

1. 寝屋川市映像協会総会での29年度活動報告(プロジェクターで説明)
2. 同30年度活動計画報告(プロジェクターで説明)  
映像同好会の本年度の活動計画は映像協会の活動計画に沿って実施していく。
3. 会計報告と予算は、引き継ぎ後、資料がまとまっていないので来月に報告する。

## 【例会】

### 1. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報随想 小笠原さん

(2) 春の撮影会の状況（新井さん）

- ・住吉大社撮影会「映像北大阪」と合同で行った。参加者 30名
- ・用意されたモデルを撮影して自由にビデオ作品を作る。
- ・秋の第2回撮影会は映像協会主催で実施する。

(3) 第11回寝屋川映像フェスティバルは5月13日（日）に実施。

- ・準備の状況は。
- ・松愛会でのPR結果は。
- ・当日はアルカスホールに12時45分集合
- ・当日の各人の担当  
画面調整 音量レベルあわせ等：竹田さん、新井さん  
受付：佐伯さん カメラ：小笠原さん 第2部司会：谷さん  
第3部司会：竹田さん。  
打ち上げ：佐伯さん 5時15分～「和民」

(4) 文化連盟理事会の報告（新井理事）

- ・文化連盟展の準備中 映像の開催場所をどこにするか。
- ・市民文化祭は中核市めざして今年から「市民芸術祭」とする。  
会場は総合センターで無く市駅前から市民会館までを使用。

(5) 第9回ビデオ作品発表会

- ・2019年5月18日 松心会館 サークル室はとれず、会議室を取った。

### 2. 映写

(1) 妹尾さん 「琵琶湖疎水船にのって」 10分

- ・京都市民の水を確保し市内各所への水資源、供給を支える琵琶湖疎水を船に乗って大津から蹴上まで迎る。（編集途中 撮影4月30日）

### 3. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等（略）



日経新聞の記事から思い出した出来事

小笠原 邦雄

今日（5月29日）の日経新聞に次のような記事が載っていた。「合理的でモダンな昭和住宅」京都府の大山崎の1万2千坪の土地に高温多湿の日本における快適な住宅の実験を繰り返した建築家がいた。広島県出身の藤井厚二氏である。彼は9か月の欧米視察を経て西洋のコピーではない真の日本住宅を考察。京都帝大への赴任を機に大山崎で本格的な設計に取り組んだ。完成した住宅は日当たりや風通しの良さが隅々まで考え抜かれていた。淀川に合流する木津川、宇治川が眼下に広がる高台の土地。うだるような暑さなのに大変な涼しさを感じた。床下と外を結ぶ「導気口」からの外気が家の中を通り抜け「排気口」から天井裏に抜ける仕掛けになっていた。この記事から次のような連想をした。

瀬戸内の小生が誕生した島の自宅のことを思い出した。家の周りが林で風がそよいであり、家の天井は高く、家の中の井戸にスイカなどの果物を袋に入れ吊るして冷やしていた。また、玄関から裏口までが通り抜けになっており、涼しい風が常時通り抜けていた。等々、いろいろな工夫がされていたように思う。また、夏の盛りに島のあちこちで盆踊りがにぎやかに執り行われていた。小生は、この辺りの風俗は南洋の影響を多く受けていると、いつの頃からか思うようになった。

最後の職場は従業員の生命保険を生命保険会社に取り次ぐ部署であった。職場のトップは、従業員の福祉事業に取り組む経営者である。切れ者のトップは生保について、厳しく生保会社に要求を連発していた。結構、無茶な要求も多かった。打ち合わせ会議では、日本でも有数の生保規模の会社の要求であり、大変苦勞されていた。小生は、それは大蔵省の認可の問題で受けられないでしょう。と、助け舟を何回も出す始末。はっきり言うべきです、と。しかし、遠慮があってははっきり言えず、むにゃむにゃを繰り返す始末。ある時、生保の専務が小さな商談コーナーに居るのを発見。誰だ、こんな所にご案内したのは！　すぐに特別応接室にご案内したこともあった。

この専務との出会いは、法人担当部長が専務と同道され、挨拶に来られた時である。話の中で、私の家に南洋の酋長と思われる絵が有りましてね。なかなか立派な人物なんですね。これが、我が家の祖先なんです。えっ！　と専務。

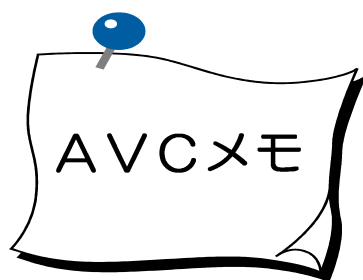
法人担当部長、慌てて、違います、違いますと真顔で否定。みんなで笑ってお終い。以降、大変懇意にさせていただいた。我が職場のトップの強い要求に困り果てたご様子に、「御社はわが社の大株主でもある。わが社の人事総括専務に事情を説明に行ってください。一挙に解決します」と、法人担当部長に話した。彼が、先方の専務にこの話を伝えたところ、誰が言っているのか？　小生の名前を伝えると、即座に、あの方が言っているのであれば間違いはない。すぐ、話に行こうと我が本社に出かけたそうである。法人担当部長によると、「御社専務は、『わが社はそのような要求は断じてしない』と一件落着いたそうである。下剋上のきらいがあるので、小生は、即座に早期退職をした。かの法人部長によると、専務が随分心配している、

との事であった。わが社の先輩諸氏の多くが世話になっている会社であるから、再就職の世話を考えていると直感したので、早々と、自分で再就職をした。

今年も暑い夏がやってこようとしている。この頃になると、毎年の事であるが、優しくした祖母のことを思い出す。祖父を早くに亡くし、一人息子を20歳過ぎに戦死させ、苦勞していた様子を小生は幼いながらに感じていた。その祖母が、浴衣を毎夏縫ってプレゼントしてくれた。糊が効いているようにカチツとした出来栄えに、嬉しくて、毎晩のように、その浴衣を着て夕涼みをしたことを思い出した。家内に、祖母を大事にしてね。と、最初の願い事を伝えた。家内は、よく、祖母と風呂に一緒に入り、背中を流してくれた。手足の爪を切ってもらった。幸せそうな祖母を見て、小生は、恥ずかしながら、何度か涙を流したことがあった。家内には、偉そうにしている自分であるが、感謝で一杯である。ありがとう。

喜寿を迎えた小生、過ぎ去った日々を懐かしむ年寄りになった。楽しかったこと、悲しかったこと、苦しかったこと、嬉しかったこと、悔しかったことなど、など、多くのことを思い出す。60代のことを思い出すと、先日の事のように思うと同時に、あの時から何年経ったかな？ えっ！ 過ぎ去ったあの年数も生きることが出来ないなどと思うと、日々の人生を有意義にしないと！ 強く思う。もうすぐにやって来る終末に・・・

ベランダに出てみた。涼しい風が心地よく通り過ぎて行った。気にしていなかった、過ぎてゆく一秒一秒が愛しい。遠く生駒山が新緑に輝いている。素晴らしい世界に小生は生かされているんだぞ！ と、心の中で叫んだ！



## 残念な「逆スイッチ」

竹田幸男

ビデオの撮影をしていて、こんな結果に出会ったことはありませんか。撮影した映像を再生しているとき、突然画面が大きく揺れ出して、慌ただしく駆けずり回るような場面となり、何かに向かって安定するか、と思った瞬間、また同じように揺れ動く画面・画面の連続……。これが1回で終わることもあるが、何回か続く場面も出てきます。

この原因は、ある場面の撮影を終わったとき、撮影ボタンを押し忘れる事にあり

ます。

撮影ボタンを押し忘れて、自分では撮影を終わったつもりで、カメラを持ったまま次の撮影対象を探します。その間はカメラが回っていることに気がつかないから、カメラはいい加減に持ち歩いています。その間に撮影は進行していますから、画面は傾き、揺れ、上を向き、下を向き、駆け回ります。

次の撮影対象を決め、自分では撮影を始めるつもりで撮影スイッチを押します。ところが、それまで撮影が続いていたので、自分では、新しい撮影を始めるつもりで撮影スイッチを押しますが、実際には、そこで撮影が止まってしまいます。

つまり、自分では撮影している、と思った時間には、カメラは止まっており、撮影が終わった、と思ったところで撮影が始まる、この繰り返しになっており、こういう状況を「逆スイッチ」と呼ばれています。つまり、自分では「撮影を開始する」と思ってスイッチを押した時は、実は撮影を終了したのであり、「撮影を終了した」と思ってスイッチを押したときは、実際には撮影を開始したのであり、自分の思いと、実際の結果とは逆であることから「逆スイッチ」と呼ばれます。

このような画面が多いと、十分なメモリーの残りがあつたはずなのに、もう一杯になってしまった、と嘆くことになります。以前のテープ式のビデオカメラでも、いつの間にかテープが終わりになっていて、もう、そんなに沢山撮影したのか？といぶかしむこともありました。

なにより困ることは、ただ、メモリーの容量を無駄に使うだけでは無く、折角撮影した、と思った場面が、撮影できていないことなのです。良い景色が撮れた、珍しい花が撮れた、今日はラッキー、とっていたのが、帰ってみたら何にも写っていない、と言う事態に陥ることです。

このような失敗、無駄な撮影をしないためには、目的の撮影が終わったとき、確実に撮影ボタンを押して停止するしかありません。

また、次の撮影を始める前にファインダー、またはモニターの画面を確認して、前回の撮影が完全に終わっていることを確認してから、次の撮影を始める癖をつけることです。

今は昔の話になりますが、フィルムを使った「8ミリ撮影機」では、このような逆スイッチ現象は全く起こりませんでした。なぜならば8ミリ撮影機は撮影レバー（ボタンで無く、レバーといえる物でした）を押している間だけフィルムが進む仕

掛けで、指を離すとフィルムは止まってしまう、絶対に逆スイッチは起こり得ません。嘗て8ミリ撮影機を作っていたメーカーが、電器メーカーからのOEM\*でビデオカメラを出したとき、わざわざアダプターを加えて、アダプターのレバーを押しているときだけ撮影を続け、レバーを離したときには撮影が止まる、という「仕掛け」をしていたのは、8ミリフィルム撮影機に慣れたユーザーが、逆スイッチをしないように配慮したためだろうと、今になって思い出します。

\*：8ミリカメラメーカーだった富士写真フィルム（現、富士フィルム）がソニーからのOEMで8ミリビデオカメラを出していた。 ■